



北中だより

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No21
文責 芹川博文
9月27日(金)

北中の歴史を紐解けば・・・ ～ 実りの秋 自分を磨く「本、人、旅」～

友
天
下
古
之
士
書

読千古之書、友天下之士

肥後勤皇「細川護美」のことばです。菊池北中にこの額を掲げてあります。身信、山の中の猿とならぬようお願いする。山中にあって読め。山中にあって天下の士との交遊、通信をしげくして、己を深めよ。己を高めよ。

「大槻幹雄先生遺稿 父親としての愛の書簡集 一継ぎゆく者へ魂を込めて」より

上の文は、菊池北中の第2代校長の大槻幹雄先生が、当時、英彦山小学校（福岡県田川郡）に勤務されていた息子の身信さんに宛てた手紙（書簡集）の中の言葉です。大槻先生は、本校校歌の作詞をはじめ、北中綱領、北中七則など、数々の北中の基礎を築かれました。

手紙の中の「山中にあって読め。山中にあって天下の士との交遊、通信をしげくして、己を深めよ。己を高めよ。」という言葉の重みを感じます。1冊の本との出会い、一人の人との出会い、旅（体験）との出会いが、人生の大きな指針となることがあります。中学生の時期に、そんな「出会い」を体験してほしいと願います。



ちなみに私自身は、子どもの時、決して「本好き」ではありませんでした。ただ記憶しているのは、夏休み前に、学校で文庫本の注文がっていたことです。また、先輩や兄から「このくらいは読んでいたほうがいいぞ」と勧められて読んだ本もあります。夏目漱石の「こころ」、武者小路実篤の「友情」、ヘルマンヘッセの「車輪の下」・・・懐かしい思い出です。もっと読んでおけばよかったという反省から、2週間に一度はキクロス（菊池市の図書館）に行くようにしています。また、北中に赴任して「10,000冊読書」の取組にも刺激を受け、週3冊を目標に学校図書から借りるようにしています。決して3冊とも読み終えるわけではありませんが、手に取り、数ページでも触れて、「その本と出会う」ことでよい、とハードルを下げて味わっています。ざっと計算すると、1年間で約100冊の本と出会えることになります。

朝晩は涼しくなってきました。秋の夜長に読書のひと時を味わってはいかがでしょうか。

北中スタートの頃 今から47年前、昭和43年に、隈府中、竜門中、迫間中が統合して北中はスタートしました。初代校長は 星野 孝 校長先生、英語の 星野 南海子 先生のお爺様です。様々な課題と向き合いながら統合への道を切り開かれたものと推察します。

当時の生徒数は、隈府中が797人、竜門中が158人、迫間中が133人で合計は、なんと1,088人。当時は3校それぞれが分校で過ごし、翌年度末の昭和45年の3月までに移転を終えました。「ギリギリ卒業式には間に合ったもんな」と当時の頃を知る方から話を伺ったこともあります。ちなみに第2代 大槻 幹雄 校長先生は、統合2年目からの3年間をご勤務され、校歌の作詞、綱領、七則の他、運動場の「菊心台」命名、寄宿舍「尚美寮」の寮歌など、様々な北中の基礎を築かれています。

現在の生徒数は108人。ちょうど10分の1です。しかし、当時の人々の思いが込められた菊心魂をはじめとする綱領や七則等は、今も大切に受け継がれています。

本がなくても本が読める!? 電子図書が生徒用タブレットに

今週から生徒用タブレットに「きくち圏域電子図書館」のアイコンが追加されました。一人3冊まで15日間貸し出し可能とのこと。

試しに私も、自分の図書カードで遅ればせながら初めて電子図書を体験しました。紙でないことに違和感はあるものの、本を持ち運びしなくても、隙間時間にその場で本を選び、読書ができることに便利さを感じます。本との違いを感じながら使ってみてみたいと思います。